

VI 家族へのケア

患者さんが穏やかに過ごせていると、ご家族も落ち着いて見守ることができます。ご家族が、お別れのときが近づいていることに気付いていないときには、医療者から説明してもらいましょう。

- 医療者から症状を正しく説明してもらい、ご家族が状況を理解されたうえでそばにいるなどの対応ができるように配慮しましょう。

がん終末期の患者さんは、毎日お会いしていないと、急に様子が変わっていてご家族が驚かれることがあります。

つらい気持ちを表せずに苦しんでいるご家族もいらっしゃいます。ご家族の立場にたって、苦しさ、思いに寄り添います。

- 普段からご家族の話を聴きましょう。

ご家族の中には、やつれて衰えていく患者さんに会うのがつらくて、面会を避けてしまうこともあります。

ご家族が、患者さんとどのように最後の大切な時間を共有されるのか、介護スタッフのおもんぱかった対応にならないように、事前に患者さんとご家族の意向を確認し、スタッフ間で共有しておきましょう。

納得のできる療養の経過が、ご家族の悲嘆のケアにもつながっていきます。

- ご家族が後悔されないように、会える時間を大切にされるよう伝えましょう。

息を引き取るときに、その場に居ようとしても、いつそのときが訪れるのかは予測が難しいものです。